

○計画期間：平成25年4月～平成30年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

27年度における本市中心市街地を取り巻く景況について、日銀鹿児島支店によると「本県の景気は緩やかに回復しつつある。個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、底堅く推移している。」とし、鹿児島財務事務所においても本県の経済情勢は「緩やかに持ち直している。個人消費は生鮮食品などを中心に好調。」としている。また、中心市街地商業者の景況感としては、第1期中心市街地活性化基本計画の最終年度である24年度は九州新幹線全線開業の追い風もあり比較的良かったものの、桜島による大量の降灰や幾度かの台風接近、中心市街地外の大型商業施設の増床等があった25年度、消費税率引き上げに天候不順等が重なった26年度と賑わいに低下をきたし、続く27年度は若干の回復を感じつつも、まだ活性化を感じるには至っていないとの意見が多かった。

商業者側の視点で販売活動などの動向を把握できる商業動態統計（経済産業省）においては、県内百貨店・スーパーの27年販売額は、温暖な日が続いた11月、12月の冬物の動きの影響もあり前年比0.2%減となったものの、26年4月の消費税率引き上げ後に対前年同月比でマイナスが続いた頃と比較すると、増となる月が増えてきている。一方、家計支出側からの視点で実態を把握できる家計調査（総務省）においては、27年の本市各世帯の消費支出が前年比で約8.7%減少（中心市街地に関係が深いと思われる一般外食、被服・履物、教育娯楽等は前年比約11.5%減少）している。なお、家計調査の本市サンプル数が少ないことから、この結果が必ずしも市民全体の状況を正確に表しているとは限らないが、市民の消費支出の減少は中心市街地に一定の影響を与えている可能性がある。その上で、店舗の売上面と家計の支出面の両方を合わせて考えると、市民以外の消費者である入込観光客による経済効果が、市民消費の減を一部補っている可能性があり、中心市街地活性化の一つとして取り組んでいる観光振興が一定の成果をあげているものと思われる。

このような状況の中、27年度は主に次のような事業に取り組んだ。

いづろ・天文館地区においては、市街地再開発事業に向けて検討を続けてきた千日町1・4番街区において、一層の推進に向けて体制を強化するために再開発準備組合が設立された。また、第2期中心市街地活性化基本計画でリニューアルした天文館公園をメイン会場に、大規模なイルミネーションで光の空間を創り出す、冬の新規大型イベント・天文館ミリオネーション2016を27年12月から28年

1月にかけて40日間開催し、若年層を中心に延べ約17万人の来街者を集めた。さらに、We Love 天文館協議会や天文館本通商店街、天文館にぎわい通商店街等において、工夫を凝らした各種催し等を行い、にぎわいの創出と来街者の増に努めた。

鹿児島中央駅地区においては、第2期計画に位置付け、26年度に開業したアミュープラザ鹿児島プレミアム館が、同時にリニューアルした本館との相乗効果を発揮し新たなにぎわいを創出する中、東口駅前広場に隣接する中央町19・20番街区において、市街地再開発事業等の都市計画決定を行った。また、JT跡地に整備した鹿児島市立病院、交通局電車施設が開業するとともに、災害避難機能も備えた広さ1.1ヘクタールの上荒田の杜公園も供用開始した。

上町・ウォーターフロント地区においては、旧国鉄用地の活用等に取り組む鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業が具体的に動き出し、公園、広場等の整備に着手した。また、第1回錦江湾潮風フェスタを開催するとともに、上町・ウォーターフロント地区を含む市街地等を疾走する鹿児島マラソン2016を初開催し、参加選手及び観覧者等約14万6千人が街なかを中心に大いににぎわせた。なお、かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会は、開催予定日前後の一時期、桜島の噴火警戒レベルが引き上げられたことから開催が見送られたが、11月に鹿児島商工会議所による「～風評被害を吹き飛ばせ！～『鹿児島花火大会』」が開催された。

中心市街地活性化の取組について、まちの商業者等からは、「大小さまざまなイベント」「街なかのイルミネーションや電線類の地中化（景観や回遊環境の向上）」「アーケードや街路灯の整備・改修」「来街者や観光客への案内サービス」を評価する声が多く聞かれるとともに、「とくとか商品券（プレミアム付商品券）」や「外国人観光客の増」に一定の効果を認める意見も多く見受けられた。一方、「中心市街地外の大規模商業施設の立地」「梅雨の長雨や台風、桜島の降灰」を心配する意見も見受けられた。

また、中心市街地への来街者に対して実施した「回遊性・満足度調査」の結果によると、中心市街地への来街機会が「増えた」「やや増えた」と答えた市内・県内からの来街者は35.9%で、「減った」「やや減った」（14.5%）を大きく上回った。また、県外からの来街者においても、「増えた」「やや増えた」は32.9%に上り、「減った」「やや減った」（3.9%）を大きく上回った。本市への再度の来訪についても尋ねたところ、「すでに予定がある」21.6%、「ぜひ来たい」73.9%と、県外からの来街者の多くが本市での滞在を楽しみ、有意義に過ごせたものと思われる。

さらに、市内・県内・県外からの来街者の中心市街地に対する感想は、好印象の意見が約6割を占め、「賑わっていて楽しい」「雰囲気が自分の趣味や年齢に合っている」「観光地、知人が来たら連れて行く」「買い物・食事以外も楽しい」等の意見が多かった。それ以外の意見としては、「街に元気がなくて寂しい」「用事が終わったら直ぐに帰る」「用事が無いと行かない」等であった。また、この1年の変化とし

ては、「にぎやかになった」「商店街が明るくなった」「人通りが増えた」など、活性化をイメージさせる意見が6割を超え、その多くは鹿児島中央駅地区を指している場合が多かった。いづろ・天文館地区、上町・ウォーターフロント地区では、「街に華が少なくなった」「歩行者が減った」等の意見が見受けられた。

このようなことから、中心市街地の現況は、商業者等にとっては活性化を実感できるレベルには至っておらず、また、市民消費の減少や中心市街地外の大規模商業施設の立地による影響などの懸念材料もあり、中心市街地を取り巻く環境は依然厳しい状況にあると考えられるものの、26年度よりは若干の回復が感じられるようになり、国内外からの観光客や鹿児島中央駅地区で昨年度増床・リニューアルした大規模商業施設がもたらすにぎわい創出効果もあいまって、本市の中心市街地は、鹿児島中央駅地区が牽引する形で活性化しつつあることがうかがえる。

今後は特に、いづろ・天文館地区や上町・ウォーターフロント地区において、活性化に向けた取組を着実に実施するとともに、新たな取組を掘り起こしていく必要がある。

2. 平成 27 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

1. 平成 27 年度は第 2 期基本計画の 3 年目となり、基本計画に掲載された各事業は概ね計画通り進捗していると考えられる。

鹿児島市のフォローアップによると、3つの目標指数のうち、「中心市街地の年間入込観光客数」は目標維持可能なものの、「歩行者通行量」「第三次産業の従業者数」は目標達成に更なる対策が必要と評価している。各事業が当初期待された効果を招来できず、現在の掲載事業だけでは、中心市街地活性化の推進力が不足しており且つ対応のスピードも十分でないと思料される。

2. 地区別の取組状況をみると、鹿児島中央駅地区は、平成 26 年度に実施された駅周辺の商業施設の増床・リニューアル等の再開発を背景に、27 年も引き続き歩行者通行量が増加する等、中心市街地 3 地区の中では最もにぎわいをみせた。

いづろ・天文館地区では、鹿児島市の「天文館ミリオネーション事業」や、商店街等主体の大小様々なイベントの開催に加え、外国人を中心とした観光客の入込が比較的堅調なこともあり、一定のにぎわいもみられた。しかしながら、平成 24 年以降は歩行者通行量が漸減傾向にあり、商業者の活動に勢いを欠き、活性化に向けた継続的な且つ新たな取組が必要である。

上町・ウォーターフロント地区は、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業が具体的に動き出したが、それ以外は活性化の核となる事業が乏しい。このため、ウォーターフロントでの大規模イベントが開催される週末は、一時的なにぎわいもみられたが、地区全体として生業（なりわい）に恒常的な活気が依然不足している。

3. 今後は、基本計画の着実な実行はもとより、中心市街地活性化の推進力を強化するための取組（民間による市街地再開発事業の促進、大規模公有地の戦略的活用、中心市街地への来客増と全体に波及させるための回遊性のプランニング等）を民間・行政一体で検討・構築し、計画内容を充実し、その実現を図ることが重要である。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
街なかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量(30 地点、土日) (人/日)	165,664 (H24)	171,000 (H29)	161,137 (H27)	③	②
都市型観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数(人)	7,762,000 (H23)	8,100,000 (H29)	7,860,000 (H26)	①	①
商業・業務機能の集積促進	第三次産業の従業者数(人)	62,939 (H21)	64,000 (H29)	60,565 (H26)	—	②

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 歩行者通行量

平成27年の歩行者通行量は161,137人と、昨年より837人(約0.5%)増加した。第2期計画が開始して3年が経過し、歩行者通行量は、降灰や台風の影響が考えられた1年目(25年)及び消費税率引き上げや中心市街地外の大型商業施設の大規模リニューアルの影響などを受けた2年目(26年)よりは改善したものの、九州新幹線全線開業の翌年・24年の165,664人(基準値)を下回る状況が続いている。

いづろ・天文館地区では、基準年の24年から3年連続の減少となり、厳しさが増している一方、鹿児島中央駅地区は、27年も大きく増加した。26年にオープンしたアミュプラザ鹿児島プレミアム館の開業効果や、26年調査から27年調査までの間に事業完了した「鹿児島市立病院建設事業」、「交通局電車施設整備事業」、「JT跡地緑地整備事業」のほか、第1期計画掲載事業のかごつまふるさと屋台村のリニューアルオープンなど、中心市街地活性化の取組による効果が現れたと考えられる。

目標達成までの約1万人増については、第2期計画最終年度の29年度までに大きな効果を期待できる大型事業が現時点では見当たらず、計画期間内の目標達成は厳しい状況も見込まれる。

(2) 中心市街地の年間入込観光客数

平成26年の中心市街地の年間入込観光客数は786万人と、前年に比べ2千人増、23年の基準値に比べ9万8千人増(約1.3%増)であった。

「中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島増床など）」により、26年9月にアミュプラザ鹿児島のプレミアム館がオープンしたことや桜島・錦江湾が日本ジオパークに認定されたこと、年間を通じて行われる多彩なイベントの開催などによるにぎわい創出などにより、26年も比較的高水準の年間入込観光客数が維持された。

続く27年度の動向としては、8月に桜島の噴火警戒レベルが引き上げられたことに伴うマイナスの影響が一部に見られたものの、7月に中心市街地の区域に近接する磯地区の旧集成館等が世界文化遺産に登録されたことに加え、外国人観光客の急増、円安による海外旅行から国内旅行へのシフトなどもあり、鹿児島地区の宿泊客数は前年度を上回るペースで増加している。

また、27年度からは天文館ミリオネーションや鹿児島マラソンといった大型イベントを新たに実施するとともに、外国人観光客の受入対策等も着実に進めていることなどから、計画期間内の中心市街地の年間入込観光客数の目標達成は可能であると見込んでいる。

(3) 第三次産業の従業者数

平成28年3月に公表された経済センサスによると、26年7月1日時点の中心市街地の第三次産業従業者は60,565人と、24年の60,562人とほぼ同数であった。

この間、中心市街地においては、第1期及び第2期計画に位置付けた事業による各種施設（かごつまふるさと屋台村、鹿児島中央ターミナルビル、LAZO表参道）の開業や企業立地、空き店舗への新規出店等により約800人の新規雇用が創出され、21年からの減少傾向は下げ止まったものの、増加には至らなかった。

26年以降も引き続き新規雇用の創出に努めており、「中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島増床など）」、「鹿児島市立病院建設事業」、「交通局電車施設整備事業」など第2期計画に位置付けた事業の効果のほか、中心市街地内への新規出店・開業等による効果も加わり、約1,300人以上の雇用が創出されている。また、ハローワークかごしま管内の有効求人倍率も、27年度の平均が1.02となり、雇用環境も徐々に改善している。

今後、目標数値を達成するまでは、26年値から約3,500人の雇用創出に取り組まなければならないが、第2期計画最終年度の29年度までに大きな効果を発揮する大型事業が現時点では見当たらず、計画期間内の目標達成は厳しい状況が見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者通行量」について、26年度定期フォローアップでは目標達成可能(③)と見込んでいた。その後、計画に位置付けた事業は概ね順調に進捗しているものの、27年の実績は161,137人と、29年目標の171,000人まであと約1万人という状況であり、目標達成に厳しさが見え始めたことから、見通しを②とした。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者通行量」※目標設定の考え方は、基本計画 P58～P62 参照

●調査結果の推移



年	(単位:人/日)
H24	165,664 (基準年値)
H25	152,707
H26	160,300
H27	161,137
H28	
H29	171,000 (目標値)

※調査方法：歩行者通行量調査（毎年度 10 月実施）

※調査月：平成 27 年 10 月

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：土・日曜日 30 地点の歩行者及び自転車等の軽車両通行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央町 19・20 番街区市街地再開発事業（中央町 19・20 番街区市街地再開発準備組合）

事業完了時期	【実施中】平成 30 年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町 19・20 番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	27 年度は都市計画決定（高度利用地区・市街地再開発事業等）を行うなど、市街地再開発事業の実施に向けた取組を着実に進めた。

②. 中央町 1 番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

事業完了時期	【済】平成 26 年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	26 年 9 月にオープンしたプレミアム館が、同時にリニューアルした本館との相乗効果を発揮し、リニューアル後の 1 年間でアミュプラザ鹿児島全体の売上高を約 2 割増やすなど、多くの来街者を集め、街なかの新たなにぎわい創出に寄与している。

③. 東千石町 1 2 番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
--------	---------------

事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	27年度は、街区内の関係権利者と土地利用について協議・検討を進めたほか、隣接する商店街振興組合と土地活用について意見交換を行った。

④. 鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
事業効果又は進捗状況	27年度は、空調・電気機器等の機能更新を行うとともに、28年度中のミュージアムショップやオープンカフェ等の整備に向けた工事設計等を行った。

⑤. 天文館シネマパラダイスと周辺商店街との連携（株式会社天文館、周辺商店街）

事業完了時期	【実施中】平成24年度～
事業概要	商店街等と映画館の相互協力により、いづろ・天文館地区への来街者に対して、映画鑑賞チケットの半券を活用した「半券バリュー」などのサービスを提供するほか、毎月10日のテンパデーにあわせ、周辺商店街において、映画観賞者の駐車場料金無料の時間延長や各種イベント等を連携して実施。
事業効果又は進捗状況	27年度の映画館の年間利用者数は15万776人と前年度比約4.9%増となった。商店街の80店と引き続き連携し、各店で商品の割引やソフトドリンクの無料追加等の取組を実施するなど、にぎわいづくりに努めている。なお、地下道で繋がり、映画館と提携している駐車場セラ602の直近の利用台数は、前年度比約1.2%増の35万3,955台（26年度）であった。

⑥. 街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）

事業完了時期	【実施中】平成27年度
事業概要	商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。
事業効果又は進捗状況	空き店舗への出店者を募集し、27年度は5店舗が開業した。また、26年度からの継続分を含めて、計6店舗に整備経費や借上経費等を助成した。

⑦. 交通局電車施設整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	【済】平成26年度
事業概要	交通局電車施設の機能拡充
事業効果又は進捗状況	27年5月に供用開始し、資料展示室を活用した見学コースを設けたほか、電車運転体験イベント等を実施するなど、来街者の増に向けた取組を推進した。また、区域外からの移転により、交通局職員約190人が新施設での業務を開始するなど、業務機能の集積促進と中心市街地内での従業者の増にも寄与した。

⑧. JT跡地緑地整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	【済】平成26年度
事業概要	JT跡地の緑地整備
事業効果又は進捗状況	27年4月に「上荒田の杜公園」として供用開始。約1.1haの敷地内に園路や遊具を整備したほか、地震等災害時の防災機能も整備し、市民や隣接する市立病院の来院者等が安心・安全に利用できる、緑豊かな魅力ある交流空間として親しまれている。

⑨. 【追加】コミュニティサイクル運営事業（鹿児島市）

事業完了時期	【実施中】平成27年度～
事業概要	複数のサイクルポート（自転車貸出拠点）を配置し、どのサイクルポートでも貸出・返却ができるコミュニティサイクルを実施
事業効果又は進捗状況	コミュニティサイクル「かごりん」は27年3月の供用開始以降、市民や観光客による利用が約15万5千回に達するなど、中心市街地内の回遊性向上が図られている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成27年の歩行者通行量は161,137人と、昨年より837人（約0.5%）増加した。第2期計画が開始して3年が経過し、歩行者通行量は、降灰や台風の影響が考えられた1年目（25年）及び消費税率引き上げや中心市街地外の大型商業施設の大規模リニューアルの影響などを受けた2年目（26年）よりは改善したものの、九州新幹線全線開業の翌年・24年の165,664人（基準値）を下回る状況が続いている。

地区別の傾向として、いづろ・天文館地区は、基準年の24年から3年連続の減少となった。中活計画に調査結果が掲載されている10年以降で最も低い数字となり、厳しさが増していることがうかがえる。中心市街地への市内からの来街者の中からは、郊外の大型店舗へ行くことが増えているとの声もあり、いづろ・天文館地区の歩行者通行量が3年連続で減少している要因の一つと考えられる。

一方、鹿児島中央駅地区の歩行者通行量は、27年も大きく増加した。同地区では、26年にオープンしたアミュプラザ鹿児島プレミアム館の開業効果や、26年調査から27年調査までの間に「鹿児島市立病院建設事業」、「交通局電車施設整備事業」、

「JT跡地緑地整備事業」が完了したほか、第1期計画掲載事業のかごっまふるさと屋台村がリニューアルオープンしており、中心市街地活性化の取組による効果が現れたと考えられる。

来街者の印象としても、鹿児島中央駅地区は「にぎやかになった」「発展した」等の意見がほとんどで、マイナス意見はほぼ見られなかった一方、いづろ・天文館地区は「さびれた」「活気が無くなった」等の意見が「賑わいがある」等の意見より多く、活性化の度合いに差があることがうかがえる。

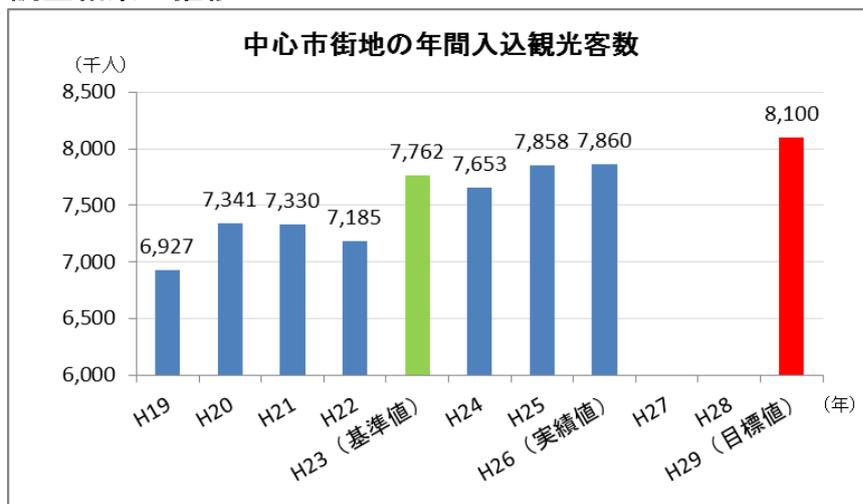
26年4月の消費税率引き上げ以降、個人消費が落ち込み、27年はやや回復の兆しが見えるものの、中心市街地と関連の深い、一般外食、被服・履物、教育娯楽等への支出額は低迷しており、これらも歩行者通行量の状況に一定の影響を及ぼしているものと思われる。

目標達成までの約1万人増については、第2期計画最終年度の29年度までに大きな効果を期待できる大型事業が現時点では見当たらず、計画期間内の目標達成は厳しい状況も見込まれるが、歩行者通行量の増に向け、第2期計画に位置付けている中央町19・20番街区や千日町1・4番街区、東千石町12番街区における大型事業を含む各事業が着実に推進できるよう努めるとともに、官民一体となってこれまで以上にまちの魅力向上のため、工夫と努力を傾ける必要がある。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地の年間入込観光客数」※目標設定の考え方は、基本計画 P63～P66 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H23	7,762,000 (基準年値)
H24	7,653,000
H25	7,858,000
H26	7,860,000
H27	(28年度フォローアップ)
H28	
H29	8,100,000 (目標値)

※調査方法：観光統計調査

※調査月：1月～12月の実績を翌年8月に集計公表

※調査主体：鹿児島市

※調査対象：鉄道、バス、自家用車、船舶等の各種交通機関を利用した観光客

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央町19・20番街区市街地再開発事業（中央町19・20番街区市街地再開発準備組合）

【再掲】 P 7

事業完了時期	【実施中】平成30年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町19・20番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	27年度は都市計画決定（高度利用地区・市街地再開発事業等）を行うなど、市街地再開発事業の実施に向けた取組を着実に進めた。

②. 中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）

【再掲】 P 7

事業完了時期	【済】平成26年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	26年9月にオープンしたプレミアム館が、同時にリニューアルした本館との相乗効果を発揮し、リニューアル後の1年間でアミュプラザ鹿児島全体の売上高を約2割増やすなど、多くの来街者を集め、街なかの新たなにぎわい創出に寄与している。

③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）
【再掲】 P 7

事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	27年度は、街区内の関係権利者と土地利用について協議・検討を進めたほか、隣接する商店街振興組合と土地活用について意見交換を行った。

④. 鹿児島市立美術館施設整備事業（鹿児島市）
【再掲】 P 8

事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	市立美術館の建物・機械・電気機器等の機能更新を行うとともに、ミュージアムショップや前庭を活用したオープンカフェ等を設置。
事業効果又は進捗状況	27年度は、空調・電気機器等の機能更新を行うとともに、28年度中のミュージアムショップやオープンカフェ等の整備に向けた工事設計等を行った。

⑤. 【追加】薩摩維新ふるさと博開催事業（薩摩維新ふるさと博実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成26年度～
事業概要	幕末・維新期の薩摩を感じられるイベントの実施
事業効果又は進捗状況	幕末・維新期の衣装に身を包んだキャストによるおもてなしやお芝居等が行われた会場には、27年10月～11月の24日間で約15万5千人が来場し、街なかのにぎわい創出に寄与した。

⑥. 【追加】錦江湾潮風フェスタ開催事業（錦江湾潮風フェスタ実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成26年度～
事業概要	錦江湾の魅力を活用したイベントの開催
事業効果又は進捗状況	昨年度は台風で開催できなかったため、27年9月が初開催となった。荒天による一部イベントの中止はあったものの、2日間で約6万人が来場するなど、街なかのにぎわい創出に寄与した。

⑦. 【追加】天文館ミリオネーション（仮称）開催事業（天文館ミリオネーション実行委員会（仮称））

事業完了時期	【実施中】平成27年度～
事業概要	中心市街地で新たに冬の季節に大規模なイルミネーションで光の空間を創り出すイベントを開催。
事業効果又は進捗状況	25年度にリニューアルオープンした天文館公園を中心に、大規

進捗状況	模なイルミネーションによる光の空間を創出するイベントを初開催。27年12月から28年1月にかけての40日間で約17万人が来場するなど、街なかのにぎわい創出に寄与した。
------	---

⑧. 【追加】鹿児島マラソン（仮称）開催事業（鹿児島マラソン実行委員会（仮称））

事業完了時期	【実施中】平成27年度～
事業概要	史跡や景観など本市の魅力を体感できる「鹿児島マラソン（仮称）」を開催。
事業効果又は進捗状況	28年3月に「鹿児島マラソン2016」を開催。大会当日は約1万2千人のランナーが中心市街地をスタートし、本市の史跡や景観などの魅力を体感できるコースを疾走するとともに、沿道の観覧者やスタッフ・ボランティアを含めて約14万6千人が参加して大会を盛り上げるなど、街なかのにぎわい創出に寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成26年の中心市街地の年間入込観光客数は786万人と、前年に比べ2千人増、23年の基準値に比べ9万8千人増（約1.3%増）であった。

「中央町1番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）」により、26年9月にアミュプラザ鹿児島のプレミアム館がオープンしたことや桜島・錦江湾が日本ジオパークに認定されたこと、年間を通じて行われる多彩なイベントの開催などによるにぎわい創出などにより、26年も比較的高水準の年間入込観光客数が維持された。

続く27年度の動向としては、8月に桜島の噴火警戒レベルが引き上げられたことに伴うマイナスの影響が一部に見られたものの、7月に中心市街地の区域に近接する磯地区の旧集成館等が世界文化遺産に登録されたことに加え、外国人観光客の急増、円安による海外旅行から国内旅行へのシフトなどもあり、鹿児島地区の宿泊客数は前年度を上回るペースで増加している。

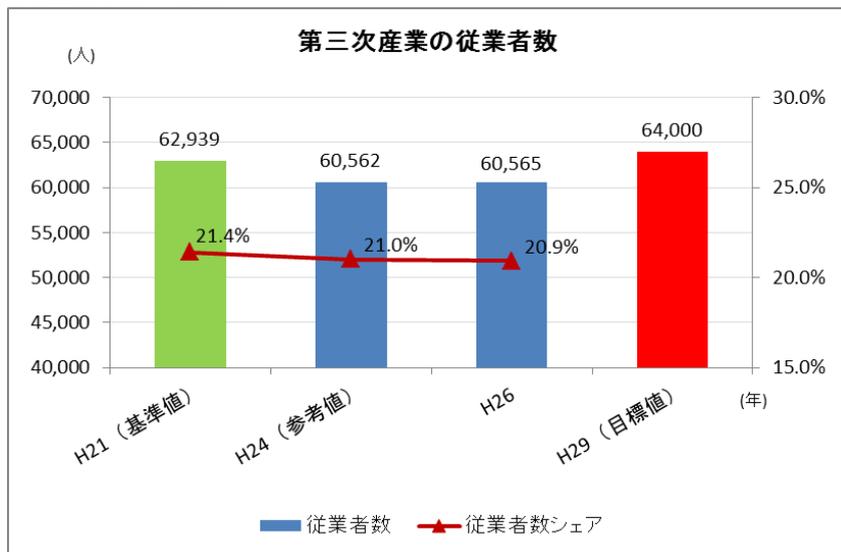
また、27年度からは天文館ミリオネーションや鹿児島マラソンといった大型イベントを新たに実施するとともに、外国人観光客の受入対策等も着実に進めていることなどから、計画期間内の目標達成は可能であると見込んでいる。

なお、新幹線効果の平準化に伴う国内観光客の動向や県内で進む大型商業施設の新築・リニューアルの影響など、懸念される事項もあることから、目標達成を確実なものにするため、引き続き新規事業の掘り起こしに官民一体となって取り組む必要がある。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「第三次産業の従業者数」※目標設定の考え方は、基本計画 P67～P69 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人)
H21	62,939 (基準年値)
H24	60,562 (参考値)
H26	60,565
H29	64,000 (目標値)

※調査方法：経済センサス基礎調査

※調査月：平成 26 年 7 月

※調査主体：総務省統計局

※調査対象：中心市街地における第三次産業の従業者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 中央町 19・20 番街区市街地再開発事業（中央町 19・20 番街区市街地再開発準備組合）
【再掲】 P 7

事業完了時期	【実施中】平成 30 年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町 19・20 番街区を一体的に活用して、商業・業務・公益施設、共同住宅、駐車場を備えた再開発ビルを整備。
事業効果又は進捗状況	27 年度は都市計画決定（高度利用地区・市街地再開発事業等）を行うなど、市街地再開発事業の実施に向けた取組を着実に進めた。

- ②. 中央町 1 番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）（九州旅客鉄道株式会社）
【再掲】 P 7

事業完了時期	【済】平成 26 年度
事業概要	鹿児島中央駅の駅ビルという立地を生かし、中心市街地内の核店舗の一つとして大きな集客機能を有するアミュプラザ鹿児島において、商業施設及び立体駐車場を増築。
事業効果又は進捗状況	26 年 9 月にオープンしたプレミアム館が、同時にリニューアルした本館との相乗効果を発揮し、リニューアル後の 1 年間でアミュプラザ鹿児島全体の売上高を約 2 割増やすなど、多くの来街者を集め、街なかの新たなにぎわい創出に寄与している。

③. 東千石町12番街区整備事業（岩崎産業株式会社、財団法人岩崎育英文化財団）
【再掲】 P 7

事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	いづろ・天文館地区において、電車通りに接する立地を生かして、小売・飲食の商業機能と郷土出身の偉人や画家の書画を展示する美術館や多目的広場を併設する複合施設を整備。
事業効果又は進捗状況	27年度は、街区内の関係権利者と土地利用について協議・検討を進めたほか、隣接する商店街振興組合と土地活用について意見交換を行った。

④. 街なか空き店舗活用事業（鹿児島市）
【再掲】 P 8

事業完了時期	【実施中】平成27年度
事業概要	商店街等が空き店舗を活用してテナントミックスやチャレンジショップを行い、新たな魅力を有する店舗を出店させる取組に対して、家賃補助等の助成を行う。
事業効果又は進捗状況	空き店舗への出店者を募集し、27年度は5店舗が開業した。また、26年度からの継続分を含めて、計6店舗に整備経費や借上経費等を助成した。

⑤. 都市型産業振興事業（鹿児島市）

事業完了時期	【実施中】平成11年度～
事業概要	ソフトプラザかごしまを活用した情報関連産業の育成・支援を行うとともに、本市の都市機能の集積を生かした企業立地の推進に取り組む。
事業効果又は進捗状況	27年度は中心市街地内に立地する3社と協定を締結（内、ソフトプラザかごしま：1社）。26年度に協定締結済みの企業を含めた4社が27年度に操業開始し、また、第2期計画が開始した25年度以降に協定を締結したその他の企業の27年度の取組もあり、約250人の雇用が創出された。

⑥. 鹿児島市立病院建設事業（鹿児島市）

事業完了時期	【済】平成26年度
事業概要	市立病院の移転新築
事業効果又は進捗状況	27年5月に移転開院。安心安全で質の高い医療の提供により、市民福祉の向上が図られているほか、診療科の再編・新設等を行ったことにより、移転前と比べて医師や看護職員、医療技術職員等を約120人増員するなど、業務機能の集積促進と中心市街地内での従業者の増に寄与した。

⑦. 交通局電車施設整備事業（鹿児島市）

【再掲】 P 9

事業完了時期	【済】平成 26 年度
事業概要	交通局電車施設の機能拡充
事業効果又は進捗状況	27 年 5 月に供用開始し、資料展示室を活用した見学コースを設けたほか、電車運転体験イベント等を実施するなど、来街者の増に向けた取組を推進した。また、区域外からの移転により、交通局職員約 190 人が新施設での業務を開始するなど、業務機能の集積促進と中心市街地内での従業者の増にも寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 28 年 3 月に公表された経済センサスによると、26 年 7 月 1 日時点の中心市街地の第三次産業従業者は 60,565 人と、24 年の 60,562 人とほぼ同数であった。

この間、中心市街地においては、第 1 期及び第 2 期計画に位置付けた、「中央町 6 番街区屋台村整備・運営事業」、「中央町 11 番街区再開発事業」、「いづろ・天文館地区にぎわい創出拠点施設整備事業」等による各種施設（かごしまふるさと屋台村、鹿児島中央ターミナルビル、LAZO 表参道）の開業、「都市型産業振興事業（現：企業立地推進事業及びソフトプラザかごしま管理運営事業）」による企業立地や「街なか空き店舗活用事業」による新規出店等により約 800 人の新規雇用が創出され、21 年からの減少傾向は下げ止まったものの、増加には至らなかった。

26 年調査時点以降も引き続き新規雇用の創出に努めており、「中央町 1 番街区等商業活性化事業（アミュプラザ鹿児島の増床など）」、「鹿児島市立病院建設事業」、「交通局電車施設整備事業」など第 2 期計画に位置付けた事業の効果のほか、中心市街地内への新規出店・開業等による効果も加わり、約 1,300 人以上の雇用が創出されている。また、ハローワークかごしま管内の有効求人倍率も、27 年度の平均が 1.02 となり、雇用環境も徐々に改善している。

今後、目標数値を達成するまでは、26 年値から約 3,500 人の雇用創出に取り組まなければならないが、第 2 期計画最終年度の 29 年度までに大きな効果を発揮する大型事業が現時点では見当たらず、計画期間内の目標達成は厳しい状況が見込まれる。

今後とも、企業立地による雇用創出を着実に推進するとともに、中央町 19・20 番街区や千日町 1・4 番街区等の再開発事業の早期実現や中心市街地の魅力向上等に向けて、官民一体となって取り組むとともに、商品販売や各種サービスの求人に応募者が集まらないというミスマッチの解消に向けた工夫も必要である。